

学校 教育 目標	「手をつなぎ、笑顔いっぱい、矢上っ子」 ○自ら学び、課題解決に向け、ねばり強くやり遂げることができるようにします。(知) ○善悪を正しく判断し、規範意識や礼儀を大切に、責任をもって行動できるようにします。(徳) ○自他の命を大切に、望ましい生活習慣と健康づくりに進んで取り組めるようにします。(体) ○まちの人との交流や支援をすすめ、地域と積極的にかかわれるようにします。(公) ○さまざまな人とのコミュニケーションを通して、社会への視野を広げられるようにします。(開)				
	学校 概要	創立 51 周年	学校長 岸 俊介	副校長 渡邊 将道	2 学期制
児童生徒数： 556 人		主な関係校： 日吉台中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
問題発見・解決能力 コミュニケーション能力	日吉台中学校 矢上小学校 日吉台小学校 日吉南小学校 北綱島小学校 箕輪小学校	「笑顔」・・・自己のよさに気づき、友達のよさも認め合える子 「あいさつ」・・・進んで他者と関わり合い、地域に生きる子 ・ブロック内での授業参観・教科等協議会を通して、「表現・コミュニケーション」を意識した授業のあり方を検討し、「指導観」「評価観」の共有を図り、9年間で子どもを育む体制を確立していく。 ・あいさつ運動をブロック内の学校で共有して実施する。

中期 取組 目標	○まちとともに歩む、誰もが安心して学ぶことができる、笑顔いっぱいの学校にします。 ・「矢上っ子は全職員で指導する」を合言葉に、チーム体制で一人ひとりの心に寄り添った指導の充実を図ります。 ・全職員が学校経営に主体的に参画し、教職員が相互に連携し、課題の共有・実践に努め、教師力を高めます。 ・意図的・計画的かつ組織的な教育課程を編成し、質の高い誇りもてる教育活動を創りあげていきます。 ・人権感覚を育み、誰もが安心して豊かに学校生活を送ることができる環境をつくり、笑顔いっぱいの学校にします。 ・学校・家庭・地域と連携し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①「横浜市学力・学習状況調査」の結果分析を活用し、エビデンスに基づいた授業改善を図ります。 ②「主体的で対話的な深い学び」をめざし、課題解決学習・協働的な学びを取り入れた授業改善を図ります。 ③「教科の指導と児童指導の一体化した授業づくり」を進めます。 ④デジタル教材や外部の教育資源を積極活用し、多様な教育体験の創出を進めます。
徳 道徳・人権教育	①道徳の時間を中心に自己を見つめる力を養い、規範意識と自尊感情を高めます。 ②たてわり活動や学級活動をはじめ、様々な活動を通して、異年齢や同年齢のつながりを築き、他人の心情を思いやる力を育てます。 ③外部講師等を積極活用し、「いじめ防止」を含めた多面的な道徳・人権教育を進めます。
体 健康教育	①栄養職員や養護教諭との連携の中で、基本的な生活習慣を身につけると共に、心身の健やかな発達や成長を支援します。 ②体力・運動能力テスト、生活意識調査の結果分析を活用し、エビデンスに基づいた体力向上実践に努めます。
公 開 ESDの推進	①SDGsを位置付けたカリキュラム作成を進めます。教科・総合的な学習の時間・特活等で、SDGsにつながる活動を年間指導計画に明記することで、SDGsを教育活動に位置づけます。
いじめへの対応	①いじめ調査、YPアセスメントの活用などとともに、アンテナを高くし、いじめの早期発見に努めます。 ②いじめ防止対策委員会を中心に、いじめへは迅速かつ組織的に対応します。児童の心情に何より寄り添い、認知したいじめ案件を組織的かつ継続的に管理し、解消に向けて取り組みます。 ③「教科の指導と児童指導の一体化した授業づくり」を通し、いじめの未然防止に努めます。
特別支援教育	①配慮の必要な子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、全職員の共通理解を図り、生活や学習の困り感を改善するために必要な支援を行います。応用行動分析など科学的なアプローチへの理解をより一層深めます。 ②「合理的配慮」や「個々の特性」に対する職員全体の共通理解を進めます。 ③多様な学びの場(特別支援教室含む)を地域COやボランティアの力も借りながら充実させます。
児童生徒指導	①職員会議内に児童理解の内容を共有し、児童の状況の共通理解を図り、職員がチームとして対応できるようにします。 ②「教科の指導と児童指導の一体化した授業づくり」を進めます。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①全職員が学校運営に参画する体制を整え、「チーム矢上小」として組織的な運営を進めます。 ②職員のキャリアステージに合わせたOJTを進め、学校全体で人材育成を進めます。 ③グループウェア・ICTを効果的に活用し、校務の合理化・効率化を一層進めます。 ④研究・研修のあり方を見直し、より実践的かつ合理的な研究・研修にモデルチェンジし、より実態にあった人材育成に取り組めます。
地域連携	①学校の経営方針や活動内容を、学校説明会や授業参観、懇談会、まち懇等を通して理解が深まるよう努めます。学校ホームページによる発信に努めます。 ②地域の人材や学習材を生かし、充実した教育活動を展開します。地域COと協働し、地域との連携を深めます。
GIGAスクール構想	①授業におけるGIGA端末を含むICTの効果的な活用を進め、個別最適な学び・協働的な学びに繋げます。デジタルドリルの効果的な活用により、学習の個性化を進めます。 ②職員⇄職員、学校⇄家庭における、ICTを利活用しての情報共有を一層推進し、効率化・合理化を図ります。